

..... 編集後記 .....

◆ 山国育ちの编者にとっては、海はただそれだけで珍しい存在でありました。学会の巡検などで立ち寄った海岸にちょっとした崖があると、地形学を専門にしている人が、これが海岸段丘でしてね、などと説明してくれました。そういう地形があるというだけでは、その意義はわかりませんでした。地震活動との関連での、段丘の高さの変化などについては、よく聞く話でしたが、海成段丘の形成過程の研究成果によれば、当時の海岸線がどうであり、堆積物はどう動き、そのような地形ができたのかがわかるようです。緻密な観察が必要なのでしょう。また、世界中の海岸線について、段丘がどうできて、という話にもつながるのでしょう。人間生活との関わりについても、進んだ話が聞けることを希望します。

◆ エビそのものはおいしいのですが、日本人が食べるためのエビを養殖している各国では、様々な環境問題が起きていているらしいことをよく報道で目にし、後味の悪い思いをします。汚染などの環境問題だけでなく、国土そのものの消失にまで問題は膨らんでいるようです。傲慢な日本人のせいなのでしょうか。食糧の自給率は下がる一方のようです。これからは、日本で食べるエビは日本で育てますなどということはありません。では、どうすればよいのでしょうか。

◆ 先日上野の国立科学博物館を訪れたところ、昔飽きずに眺めた岩石や鉱物の系統的展示がなくなっていたので驚きました。我が地質標本館が国内最大の展示場になっています。最近、思わぬところで鉱物の英語名を聞いてギョッとすることがあります。トルマリン、電気石じゃ。これがザクザク売られています。

す。キロ当たり千何百円とか。日本で自分で良形の結晶を採取するとなると、相当な努力が必要です。もちろん輸入物です。いわく、健康に良いのだとか、リラックス効果があったりして、鉱物や結晶の教科書には、そんなこと書いてありませんでしたが。

◆ イタリアに火山が多いことは多くの人が知っています。フランスにも火山があることは、水の宣伝広告のために少しずつ知られるようになりました。そしてドイツにもあります。高温岩体もあります。高温岩体そのものの説明をする入門編が必要だったかもしれません。目に触れることがありませんので、多くの人を納得させるためには、テストだけでなく、実績も必要です。日本でも、発電をするのかどうかは知りませんが、高温岩体温泉プールとか、皆様のお役に立っていますという宣伝が。

◆ 地熱調査では多くの種類のデータが得られます。新しい探査手法が開発されると、そのデータだけでは何が得られるか、その次の段階として、他のデータと結びつけると何がわかるかが検討されます。そこで新しい手法の評価がなされます。ポツになっていく方法もあるわけです。これはもちろん地熱の調査だけの問題ではないでしょう。ほかのあらゆる探査や調査でも行われているはず。一般に理学的な調査の場合は評価が甘いですね。いつまでも、あの方法で、などと陰口をたたかれます。

◆ 日本で溶岩樹型があるところは、今でも林の中であることが多いので、薄暗く、また、穴の中は真っ暗です。きれいに写真を撮るのにはそれなりの努力が必要のようです。天気が良すぎると影ばかり目立ちます。きれいな写真を撮りに、皆様も御訪ね下さい。(須藤 茂)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤 茂

副委員長：谷田部信郎

委員：高木哲一・関口春子・中島 隆・  
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館  
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1  
Tel. 029-861-3754  
Fax. 029-861-3569

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第595号	2004年	3月号
	定価¥785 (本体価格¥748)	〒実費	
2004年3月1日 発行			
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	E-mail:j-k@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

©2004 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。